

氏名： 宝月 理恵
所属： 人間文化創成科学研究科
職名： リサーチフェロー
学位： 博士(社会科学)
専門分野： 社会学
E-mail： hogetsu.rie@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

歯科衛生／近代日本／医療化／医療専門職／専門職化

Dental Hygiene / Modern Japan / medicalization / Medical Profession / Professionalization

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・宝月理恵『近代日本における衛生の展開と受容』(2010年、東信堂)

◆研究内容 / Research Pursuits

現在ふたつの研究課題に取り組んでいる。一つは戦間期日本の学校衛生と咀嚼との関係性についての考察である。なぜ咀嚼が戦間期の学校衛生において、主要な教育実践となったのかを歴史的に考察している。完全な咀嚼の方法や意義を、団体訓練の形で小学校児童に教授するということは、現代人にとっては奇異に映るかもしれない。しかし、咀嚼教練に着目すると、学校児童と戦間期日本社会との関係性が鮮やかに浮かび上がってくる。ふたつめの課題は、医療専門職の構造的関係性と身体の医療化についての考察である。20世紀以降、保健医療関連の職種は数、量ともに飛躍的に拡大し、現在では、医師のみならず様々なヘルスワーカーが保健医療の現場を担っている。専門職内部での複雑な関係性は、保健医療サービスの受給者にとって、どのような影響を及ぼすのか。おもに戦後の口腔保健を事例として、口腔をめぐる医師・歯科医師やパラメディカルの構造的関係性の変容を明らかにするとともに、サービス受給者の口腔、ひいては身体の医療化に、それらがいかに影響を与えてきたのかを明らかにしたい。

Dr. Hogetsu does research on hygiene education, school dentistry, and everyday healthcare practices in modern Japan. Her current project aims to explore why and how mastication became the focus of oral care in the school hygiene system in prewar and wartime Japan. For modern readers, mastication seems to have little relation to school hygiene; however, she tries to show how mastication forms an integral aspect of historical examination of the relation between schoolchildren and society in wartime Japan. She is also interested in medicalization of the mouth and the inter-professional structure of dental practices in twentieth-century Japan. Medicine in the twentieth century is characterized by an increase in the number of types of health worker. Consequently, there have been increasing opportunities for clients to be drawn into the discipline of the body and the practice of health by health workers who are not “doctors.” She aims to ascertain how inter-professional relationships have been changing in the socio-cultural contexts, and how those dynamics have led to important consequences for the condition of the mouth which has come to occupy a unique place in the intersection of our everyday life and the world of professions.

◆教育内容 / Educational Pursuits

1年生から4年生を対象にしたリベラルアーツ科目を担当し、医療と社会をテーマにした授業を行っている。現代の主流である近代西洋医学を歴史的に相対化するために、現代的事象を取り扱うだけでなく、時代をさかのぼって検討を加えている。そして、どのように医療（者）とその社会的位置づけが変容してきたのか、さらにそのことの社会的含意とは何かを、受講生とともに検討することをねらいとしている。

◆研究計画

歴史社会学研究にとっての今後の課題の一つは、「一般の人々がどのように（あるイベントや日常生活を）経験したか」という側面に光を当てることではないかと考えている。これまでの歴史（社会学）研究では、人々の経験については、中心的な研究対象とはなっていないため、今後の自身の研究においても、衛生教育の受容者側への視点を発展させていくことが重要だと考えている。同様に、専門職間の構造的関係性が、保健医療サービスの受給者にいかなる影響を与えてきたのかについて明らかにすることが必要である。そうすることで、複層的な専門職の構造的性を解明するだけでなく、それらがわれわれ自身に及ぼしている意味や帰結を提示することが可能となるだろう。

◆メッセージ

身近な主題から、医療と社会の関係性の変容を社会的な観点から明らかにできるような研究および授業を目指しています。